

6 施設・設備等

(1) 施設・設備等の整備

【現状の説明】

1 本学の施設・設備の整備

本学の施設・設備は、大学の特色及び教育理念にふさわしい機能を備えた良好な教育研究環境をもつ風格のあるキャンパスの実現のため、次の点に配慮して計画され平成10年9月に完成した。

- (1) 周辺の住宅地と田園地帯の環境に調和するよう外観や建築物の高さを押さえた設計（最高4階建、18.3m）
- (2) 本部棟や学部棟など各施設間にゆとりのあるつながりを持たせ、学生及び教員が利用しやすい施設
- (3) 経済性、効率性の観点から、可能な範囲での施設・設備の共有化、集約化を図るとともに、自然エネルギーの積極的活用
- (4) 建物に自動扉やエレベーター、車椅子用トイレを配置するなど、障害のある人を含め、利用者に使いやすい施設
- (5) ゆとりと潤いのある空間を持つ広場や緑地などを積極的に設け、学生や教員のコミュニケーションの場として、利用しやすいオープンなキャンパス

2 施設の面積

本学の施設面積を表6 - 1に示す。

表6 - 1

施 設	階 数	面積 (m ²)
敷地面積		102,260
本部棟	4	7,684
大学棟	4	15,349
短大棟	4	16,018
教育研修センター棟	4	3,541
学生会館棟	4	1,828
共通施設棟	1	3,185
図書館棟	1	2,904
体育館	3	2,922
グラウンド		15,892
テニスコート	4 面	3,050

3 施設の概要

大学施設は、フォーラムゾーン、教室棟ゾーン、スポーツゾーンによって構成され基本理念の「連携と統合」を象徴するように、各施設が相互の関係を深める様に配置されるとともに、エレベーターや屋上デッキ、スロープ等を通して各ゾーンへの自由なアクセスが図られている。

(1) フォーラムゾーン

本部棟、講堂、食堂、売店、学生会館、図書館からなる。

1) 本部棟

施設全体のインフォメーション、施設管理、運営の中核機能を果たす。

事務室、防災センター、保健センター、会議室等

2) 講堂

学内の式典、講演等に利用される。客席数805席。

ステージの背面を開放することにより、屋外の芝のスロープを観客席として取り込むことができる。

3) 食堂、売店

食堂はカフェテリア方式。席数350席

4) 学生会館

学生ラウンジを中心とした学生のための福利厚生施設

ラウンジ、部室（26室）、和室、会議室（2室）、同窓会室、自治会室

5) 図書館

書籍の他、情報処理機器も備えた総合情報センター

20万冊の蔵書能力を有し、現在の蔵書数は、約8万冊

開架書庫、閉架書庫、閲覧室（202席）、対面読書室、グループ研究室（4室）

A/V編集室、情報ラウンジ（パソコン75台）

(2) 教室棟ゾーン

大学棟、短大棟、共通施設棟からなる。

各学科ごとの分棟形式をとらず、大学、短大、各学科間の相互交流を図ることのできる一体型の施設となっている。

1) 実験・実習室（54室）

各棟の1階に配置し、大学、短大、各学科の相互利用と連携を図る。

2) 講義室・研究室

小講義室を2階、大講義室、中講義室を3階に配置。教授、助教授、講師の研究室は、研究の自立性を保つため3、4階に配置。

小講義室	大学	14室	短大	11室	計	25室	1室	45席
------	----	-----	----	-----	---	-----	----	-----

中講義室	大学	3室	短大	2室	計	5室	1室	100席
------	----	----	----	----	---	----	----	------

大講義室	大学	1室	短大	1室	計	2室	1室	200席
------	----	----	----	----	---	----	----	------

研究室	大学	86室	短大	67室	計	153室
-----	----	-----	----	-----	---	------

3) 教育研修センター

大学の地域貢献活動の拠点施設として、看護教員養成講習会をはじめとする保健医療福祉従事者対象の研修会・講習会・専門職講座を開き、一般県民向けの公開講座及び地域との連帯・交流などを行う。

研修室（14室）、研修ホール、会議室、展示ホール、実験研究室

(3) スポーツゾーン

体育館、グラウンド、テニスコートからなる。

それぞれの施設は、防災対策機能を有し、地域開放施設として、学外者に貸し出しを実施している。

1) 体育館

練習用バスケットコート2面をもつアリーナと、ダンス室、トレーニング室、測定機器室、管理室、会議室を有す。

2) グラウンド

ソフトボールグラウンド1面、300メートルトラック1面、倉庫
夜間照明設備あり

3) テニスコート

4面、地下調整池の上に配置、敷地の有効活用を図っている。
夜間照明設備あり

(4) 情報処理機器

情報処理実習室やC A I実習室の各部屋に教育用のパソコンを48台ずつ、また図書館の情報ラウンジ等にパソコン87台が設置されている。

4 設備の特色

(1) 福祉対策

障害をもつ人ができるだけ施設を利用しやすいように、学生や学外者の人たちが共用する施設群は1、2階に配置し、移動のための負担を極力軽減するようにしている。

1) バリアフリーなアクセスを可能にするため、段差のない構造にし、また、随所にエレベーターを設置している。

2) 点字ブロック、点字案内板、音声標識ガイドなどの障害者対策を図っている。

(2) 防災対策

災害発生時においては、周辺住民の一時避難場所として活用できるよう下記設備を設置している。併せて、保健医療福祉系の大学として持つ設備や教員等の人材も有効に活用する。

1) 耐震性貯水槽の設置

災害時の大学周辺住民への飲料水として、地下式貯水槽(100m³)を設置。

2) 井戸の設置

災害時のトイレの洗浄水用として、井戸(200L/分)を設置。

3) 非常用発電設備

災害時に事務室等の電源を確保できるように自家発電装置を設置。

(1,000KVAの発電容量で72時間程度の発電を確保)

4) 太陽光発電システム

非常用発電設備と併せて、ソーラーパネルによる発電設備を設置。(発電容量:80Kw)

5) 備蓄倉庫の設置

食料、医薬品等の備蓄用として設置。(46.2m²×2室)

6) グランド照明の設置

避難時に屋外照明として使用。

- 7) 建物の躯体部分の耐震強度の割増
耐震設計に考慮し、設計用地震勇断力係数を1.5倍に割増して設計。
- (3) 省エネ対策
- 1) 屋上デッキの設置及び緑化
屋上に木製デッキを設置。また、屋上緑化により施設の断熱効果の向上、省エネ効果が期待できる。植栽は、比較的手入れが簡単で耐性のある芝、メキシコマンネングサ、アイビー及びピンカミノールを選定。自動灌水設備を設置。
 - 2) 環境調整型空調システム(パッシブソーラー)を採用
メディアギャラリーと呼ばれる大学棟、短大棟の1階から4階までの吹き抜け空間は、建物自体が自然エネルギー（日射、外気熱、風、地温等）を利用して内部環境を調整するよう設計されている。
 - 3) 80kwの発電能力を有する太陽光発電装置(体育館屋上に設置)。
 - 4) 雨水の再利用(トイレの洗浄水、芝の散水)。 雨水槽は、950m³
 - 5) 太陽熱利用温水器の設置。(本部棟屋上に設置)
これら省エネ対策の効果は、設計上では、年間光熱水費20%程度の削減になる。

5 施設の開放

体育施設等は、県民サービスの向上を図るため、埼玉県立大学施設等管理規程に基づき、大学の運営に支障のない範囲で講堂、体育館、グラウンド、テニスコートの使用を学外者に許可している。利用時間は土・日曜日、祝日の9：00～17：00までとしている。

表6 - 2 に年度別使用状況を示す。

表6 - 2

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
講堂	3	2	2	6
体育館	0	1	0	0
グラウンド	3	21	33	55
テニスコート	9	91	114	135
計(件)	15	115	149	196

【点検・評価】

1 施設・設備の内容

- (1) 大学の敷地や校舎はゆとりを感じさせるだけの十分な広さになっており、教育研究を実現するにこれ以上ない環境と言えるものである。学生に憩いを与える屋上緑化やウッドデッキは快適空間を創出しており、また、大学周辺を植樹で囲むなど地域住民の憩いの場になっている。
- (2) 各施設はバリアフリーとなっており、障害を持つ人にとっても利用しやすい施設となっている。
- (3) 設備については、近年の高度化した医療に対応した機器を装備しており、質の高い教育を実現できるよう図られている。

(長所と問題点)

1 施設・設備の維持管理

- (1) 施設・設備の維持管理は、施設管理担当において総合的に行われており、各種法定点検の実施に加え、定期点検、日常点検を委託業務として実施している。ただ一部の設備については管理が明確でないものもある。
- (2) 施設・設備の長期修繕計画を立案しているが、昨今の厳しい財政状況を考慮すれば、一層の見直しを図り、修繕費の節減に努めなければならない。

【将来の改善・改革に向けた方策】

- (1) 平成18年に実施される大学と短期大学部の統合・再編に伴って、施設・設備の改善・改修を計画するとともに、長期修繕計画とも併せてより効率良く実施する。
- (2) 講堂、体育館、グラウンド、テニスコートは一般開放されているが、今後は他の施設についても開放要求にどのように対応していくか検討する。

(2) 情報システムの整備

社会の高度情報化に伴い、大学においても学術情報基盤の整備充実の必要性及び情報処理教育の重要性が増大している。

21世紀の地域に貢献する大学を目指す本学においても、情報システムは必須のものであり、次のような目的のもとに整備を行った。

- 1) 「保健医療福祉情報の収集・管理」機能を具体化するとともに、情報化による教育環境の高度化に資する。
- 2) マルチメディア技術の社会的展開に対し、学生の情報活用能力を育成する。
- 3) 大学の教育・研究活動の高度化、多様化、活性化を推進する。
- 4) 大学内の事務処理を合理化し、大学運営の高度化・効率化を図る。

情報システムは、平成11年4月1日開学に合わせ、供用を開始した。

なお、情報システムは大学全体として整備されており、大学、短大の別なく利用できる。

【現状の説明】

1 情報システムの概要

情報システムは、クライアント・サーバ方式で構築されており、各教員研究室、教室、実習室、図書館、事務室等のパソコンとサーバ間は幹線に光ケーブルを配し、学内LANを構築している。

本学の情報システムは大きく分けて次の4つのシステムからなっている。それぞれの詳細については、表6-3のとおりである。

- (1) 共通システム
- (2) 教育・研究システム
- (3) 図書システム
- (4) 学務システム

表 6 - 3 情報システムの主な機能一覧表

	機 能	説 明
共 通 シ ス テ ム	学外への情報公開	インターネットを利用して大学紹介、研究活動情報、図書館情報、公開講座案内など大学の様々な情報を公開する。
	コミュニケーション	学内外とのメール交換ができる外、イントラネットにより試験情報、学生活動情報や教員から学生への連絡事項等学内情報が交換できる。 また、ＩＤカードを通すだけで、自分宛のメールや電子掲示板を閲覧することができる小型掲示板（パソコン大学棟３台、短大棟３台）も設置されている。
	学内への情報公開	教材、図書館情報、事務局情報を公開する。
教 育 ・ 研 究 シ ス テ ム	統計解析	統計解析処理プログラム等の共同利用が行える。
	情報処理教育	情報処理に必要な基礎技術を習得するための情報処理実習室（パソコン48台）を共通棟に整備。
	語学教育	カセットやビデオ、ＶＯＤなどのマルチメディア情報を利用し、効率よい語学学習などを可能とするＣＡＩ実習室（パソコン48台）を共通棟に整備。
	教材等作成支援	教材や研究発表資料などに用いるＡＶやマルチメディアデータを加工・編集するマルチメディア編集室（パソコン４台）を図書館内に整備。
	学生自習支援	学生が自由に情報システムを利用することを可能とするパソコン等を設置した情報ラウンジ等（パソコン87台）を図書館内に整備。
	リモートアクセス	学生や教職員が学外から公衆回線を利用し、メールなどの学内システムを利用できる。
図 書 シ ス テ ム	インフォメーション	新着図書・図書館利用案内を行う。
	退出管理	不正持出防止装置を設置し、不正持ち出しを防止する。
	図書管理	図書の発注管理、納期管理、受入管理、装備、予算管理、蔵書管理を行う。
	閲覧管理	図書の貸出管理、返却管理、予約管理、督促管理、利用者管理を行う。 図書の相互貸借、複写を行う。
	情報検索	蔵書の目録検索を行う。（検索用パソコン４台） マルチメディア情報、文献検索などのＣＤ－ＲＯＭ検索を行う。 学術情報センター等の外部データベース検索を行う。

	機 能	説 明
学 務 シ ス テ ム	教	入試管理 志願者の管理、採点や合格判定の支援、入学予定者の管理を行う。
		履修管理 履修承認管理、成績管理、定期試験管理、進級・卒業管理、成績表管理を行う。
	学	非常勤講師管理 委嘱管理、報酬計算を行う。
		学生管理 学生証発行管理、各種証明書発行管理、就職先管理、保健衛生管理、学籍簿管理を行う。
	総	授業料等徴収管理 授業料徴収管理を行う。
	務	備品・消耗品管理 備品・消耗品の予算管理を行う。

2 情報システムの運用

- (1) 本学の情報システムの円滑な運用を図るため、学内に情報システム運営委員会が設置され、平成11、12、13、14年度の各年度において11回会議を開いた。
- (2) 情報システム機能の維持管理及び情報システムの運用のため、委託業者のシステムエンジニアが2名常駐している。
- (3) 毎年4月の初めに全新生を対象として、情報システムの利用に関する90分の講習会を1人1台のコンピュータを使用しながら実施している。

3 情報システムの利用

学生が利用できる情報設備の主なものは次のとおりである。

- (1) 情報ラウンジ等（図書館内） 情報ラウンジ パソコン75台 閲覧ブース パソコン8台
学生が自由に利用。
- (2) 情報処理実習室 パソコン48台 情報処理、語学教育の授業で使用。空き時間は学生が自由に利用。午後9時まで利用可能。
- (3) C A I 実習室 パソコン48台 同上
- (4) 図書館グループ研究室 パソコン4台 学生が自由に利用。
- (5) 学生資料室 パソコン1台 学生が自由に利用。
- (6) メディアギャラリー 小型掲示板6台 学生が学内情報、自分宛のメールを見るために利用。
- (7) 情報コンセント（図書館、メディアギャラリー）84個 学生が持参したパソコンを学内LANに接続できる。
- (8) 蔵書検索 図書目録をデータベース化し、学内外のパソコンでの図書検索が可能である。また、CD-ROMを利用して各種学術雑誌の検索が可能である。
- (9) インターネット、電子メール 学内外との情報交換に利用（学生生活情報や教員から学生への

連絡事項等学内情報が交換できる。

4 セキュリティ対策（コンピュータウイルス感染対策、不正アクセス対策）

本学のセキュリティ対策は次のように行われている。

(1) ウィルス対策

- 1) インターネットを通じてのメールの送受信・ホームページの閲覧に関しては、ゲートウェイ型ウィルス検索サーバによって全てウィルスチェックされる。
- 2) 学内ネットワークに関しては、メールサーバを含む全てのサーバ及び各クライアントについては、ウィルス対策ソフトを導入し、対策を講じている。
- 3) その他の対策として、各サーバ及び各クライアントへのセキュリティーパッチの適用、セキュリティ対策設定などがある。

(2) 不正アクセス対策

- 1) インターネットのアクセスに関しては、ファイアウォールによってチェックされている。
- 2) ダイアルアップ接続に関しては、リモートアクセスサーバによるユーザ認証とアクセスコントロールを行っている。
- 3) その他、個人情報などの盗聴、改ざんに関しては、暗号化装置により通信データを暗号化することによって対応している。

【点検・評価】

1 情報システムの運用

情報システム運営委員会では、「情報システム利用規程」、「ホームページの開設と運用に関する要項」等諸規程を定め、情報システムの適切な運用を図った。

平成13年7月に「ホームページの開設と運用に関する要項」を定めた後、ホームページの開設が平成13年度末までに4件あったなど、徐々に要項を定めた効果が現れている。

2 情報システムの利用状況

学生が自由に利用できるパソコン台数は、合計155台であり、（【現状の説明】3 情報システムの利用）学生定員1,250人（大学670人＋短大580人）との対比では、パソコン1台当たり学生8.1人となる。

学生が主に利用する情報ラウンジ、情報処理実習室、C A I 実習室の利用状況を示したものが次表である。

表 6 - 4 情報ラウンジ、情報処理実習室、C A I 実習室利用者数（平成15年）単位：人

	情報ラウンジ	情報処理実習室	C A I 実習室	合 計
4 月	3,585 (188.7)	1,450 (69.0)	1,333 (63.5)	6,368 (321.2)
5 月	3,923 (196.2)	1,808 (90.4)	1,731 (86.6)	7,462 (373.2)
6 月	4,842 (230.6)	2,089 (99.5)	1,840 (87.6)	8,771 (417.7)

ログオンの成功回数をカウント（同じ学生が同じパソコンを数回使用しても1回カウント）

カッコ内の数字は、1日平均の利用者数を示す。（開室日数4月：21日、5月：20日、6月：20日）

学生のパソコン利用の状況に応じて情報処理実習室等のオープン利用化を進めてきた。この結果、学生の情報ラウンジ等の利用状況は、現在のところ全体的に見ればパソコン台数が不足しているとはいえないが、時間帯や時期等によっては、かなりの混雑状況が見られる。

今後はさらに、インターネットを利用した情報収集、メールによる教員との連絡など、学生のパソコン利用の増大が予想される。

3 セキュリティ対策

平成12年10月13日（金）に、学内でコンピュータウイルス感染事故があり、パソコン7台、サーバ3台が感染した。その後被害はないがコンピュータウイルスは表6-5のとおり多数検出されている。

表 6 - 5 コンピュータウイルス検出数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成14年度	186	365	303	514	362	359	397	318	191	302	514	389	4199
平成13年度	16	10	21	13	11	15	12	287	161	81	30	90	747
平成12年度	6	3	1	6	9	8	16	42	30	19	14	11	165
平成11年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52	51	19	122

このような状況のため、平成13年度には、次のようなセキュリティ対策を行った。

- (1) コンピュータウイルス感染事故対策シミュレーションを実施した。
- (2) 危機管理マニュアル「コンピュータウイルス感染事故対策マニュアル」を改正し、常勤教職員に配布した。
- (3) 学内端末コンピュータウイルス及びセキュリティ対策作業を教職員各自で行った。
- (4) コンピュータウイルス検出の増加に対し、学内ホームページに、警告と対策のページを追加した。

(5) 各サーバ及び各クライアントのセキュリティホールに対して、随時、セキュリティパッチの適用を行った。

セキュリティー対策を強化した結果、平成12年11月以降コンピュータウイルス感染事故が起きていない。このセキュリティー対策は評価される。

【将来の改善・改革に向けた方策】

1 情報システムを利用した情報発信機能の充実

ホームページは、本学の最新情報の提供の場であり、広報媒体の一環として、ますます重要な位置を占めてきているので、その充実を図る必要がある。

2 情報システム機器

パソコン台数については、利用状況に応じた配置等を検討するとともにその増設についても検討する。

また、情報システムの機能が大学の教育・研究面に大きな影響を及ぼすことから、情報システムの見直し、必要な機器の更新を適切に行う必要がある。なお、ネットワークの高速化（実習室ネットワークの高速化）についても検討する。

3 セキュリティ対策

年々増加するコンピュータウイルス感染、不正アクセスに対抗するため、セキュリティ対策の強化は、さらに重要となる。

教職員へのコンピュータウイルス情報の提供、ハード、ソフト面における最新設備の導入等が求められる。